
罪のある人

めくじら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

罪のある人

【Nコード】

N8365A

【作者名】

めくじら

【あらすじ】

罪はあるのでしょうか？ないのでしょうか？

今の今、世界ではいくつの出逢いがあるのだろうか、それは、きつと数え切れないほどの物語を生み出すんだ。出逢い、別れ、再び出逢い。繰り返して、繰り返す。死ぬまで終わらない。

ここに一人、青年がいる。見下ろす視線の先に、泣き崩れる母親らしき人物。彼はたった今死んだのだ。

青年と彼の母親はこれから高校の三者面談を控え、高校へと向かう海沿いの歩道を歩いていた。

母親は期待と緊張、青年は落胆と恐怖、各々、足取りは重い。高校へと続く、長く細い歩道。

こんなに長かったっけ？

何度となくそう思った。いつもは隣りの車道を快速で行く車達が、憎く羨ましかったが、今日だけは気の毒に思う。彼らにスピードを緩める権利はないのだ。

しばらく歩く。

そして、会話の話題も尽き、青年はなんとなく車道に視線を向けた。

それは、凄まじい偶然、奇跡的な確率だっただろう。茂る木々の葉の隙間から、まだ、幼い子供が道路に突っ伏しているのを発見した。反射的に見た道路の先には、暴音を引っさげたトラックがある。彼も初めは半信半疑だった。近くに親と思われる、話し込む女性がいたし、車だって近づけば子供に気づき止まるだろうと思った。

（それでも、嫌な予感がしたんだ）

青年は足を止めずに歩く。隙間が視線から外れ、全く見えない。

トラックも木々に姿を隠した。

(まあ、夢なんかなかったし：)

トラックの音で正確に位置がわかった。

(：唯一の心残りは母さんを置いていくことか)

さっきの子供にもう近い。トラックはスピードを緩めない。いや、トラックにそんな権利はないか。

どうせ、さっきの母親が気づき助けただろう？今頃、母親に手を引かれ、幸せな家庭に戻っていく真っ最中さ。

トラックのあげる金切り声。まるで、悲鳴だ。

近づく

近づく

近づく。

青年は密集する葉を両手でどけ、顔を寝かして、覗き込む。隣りに歩く母親が、青年に声をかけようとするが、トラックの音がそれを拒んだ。

マジ！？

先ほどの母親らしき人物はどこかに消え、子供がまだそこにいた。走り出した。……何故？……わからない。だけど、だけど。

青年は駆け足ばやにやってくると、子供の両脇を抱え、歩道側に投げた。

子供は足から落ち、顔をぶつけた。

(これで、死んでたら殺人になってたのかな？)

子供は泣き出した。

良かつ

グシャー!!

青年の体は激しくコンクリートに叩きつけられ、不規則に折れ曲がった。

（子供を守って死ぬ…か、明日にはヒーローだな）
どこからか、悲鳴が聞こえる。

（母さんには可哀想なことをした）

トラックは走り去る。

（ごめんなさい）

青年は死に、やがて人だかりが出来る。彼らはよっぽど暇なんだろう。そこに集まった誰もが、私とは直接関係のない人間。

ほんの2、3分前は私など見て見ぬふりだった彼らが、声も高々に惜しげもなく私的時間を割く。

『可哀想…。でも、勇気あるな…。バカな奴。死体見てみたい。友達に教えよう（脚色して）。私だったら出来るかしら？』

集まった人間達の頭にある考えが手にとるようにわかる。

（へえー、これは死んだおかげかな）

どれも自分勝手な考えだった。いや、考えなんてそれ自体がすでに自分勝手なのかもしれない。

（だったら子供を助けたあの瞬間でさえ……）

事故のあった日から、二年が経過し、私は今なお、空を漂う。
私はもう、限定的な空間でしか笑うことも悲しむことも出来なくな
ってしまった。

でも、今はそれが心地良い。これは、自分勝手な自分自身への私刑
なのだろうから。

（後書き）

有り難う御座いました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8365a/>

罪のある人

2011年1月28日15時09分発行